
宮崎県埋蔵文化財センター年報

第12号

平成20
(2008)
年度

2008

序

本書は宮崎県埋蔵文化財センターの概要と平成19年度に実施した諸事業についてまとめたものです。

当センターでは国・県・西日本高速道路(株)等の実施する各種開発事業に伴う発掘調査を行うとともに、出土品等発掘文化財の整理、収蔵、公開をすすめ、明らかになった郷土の歴史に関することがらを報告会等によって県民の皆様の郷土に対する理解に役立てるなど、埋蔵文化財の保護と活用に積極的に取り組んでいるところです。発掘調査では、東九州自動車道建設に伴う発掘調査については、都農～西都間で1遺跡を、門川～日向間で2遺跡を、県境～北川間で7遺跡を実施し、また、国の事業に伴う4遺跡、県の事業に伴う4遺跡についても調査を実施いたしました。

主な発掘調査については、随時現地説明会や調査報告会を開催して発掘の成果を一般に公開していますが、今後とも県民の皆様に郷土の歴史にじかに触れていただく機会をできるだけ多く持ちたいと考えております。

埋蔵文化財行政の十分な成果が得られるよう今後ともより一層の努力をしてまいりたいと存じます。

関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成20年5月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 福永展幸

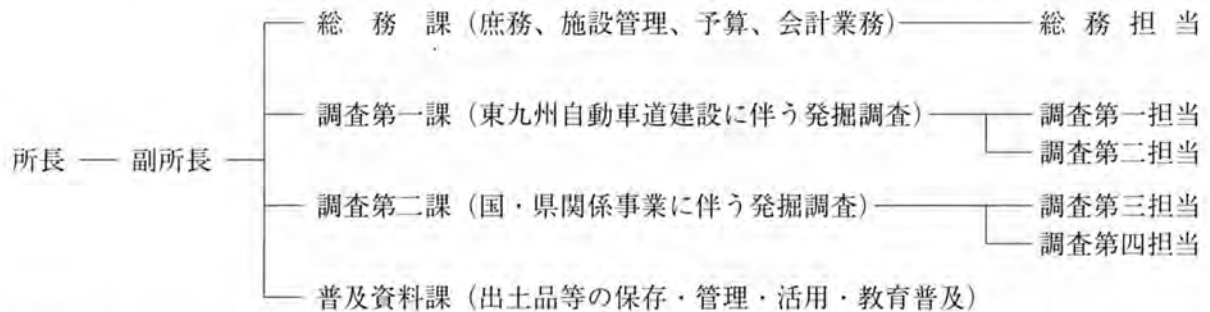
目 次

I	組織・施設	1
II	埋蔵文化財センターの沿革	3
III	平成19年度の活動状況	4
1	埋蔵文化財緊急調査	4
(1)	発掘調査	4
(2)	発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査	7
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	8
(4)	保存処理	10
(5)	収蔵整理	11
2	教育普及活動	11
(1)	遺物公開	11
(2)	ここまでわかったひむかの歴史～講演会と遺物公開～	12
(3)	ひむかの歴史2007～平成18年度遺跡発掘速報会～	12
(4)	埋文センター施設公開	13
(5)	出前講座	13
(6)	ミニ巡回展	13
(7)	発掘体験	14
(8)	資料等の提供	14
(9)	見学・研修・体験学習等の受入れ	16
(10)	広報出版物	17
(11)	ホームページ	17
(12)	現地説明会及び結果報告会	17
(13)	職員派遣	18
(14)	埋蔵文化財担当専門職員研修会	18
3	会議・職員研修	19
(1)	各種会議等への参加	19
(2)	労働安全衛生関係の講習会等への参加	19
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	20

I 組織・施設

組織

(平成20年5月1日現在)



所長 福永 展幸	主事 岡田 諭	調査第二課
副所長 加藤 悟郎	主事 岸田 裕一	課長 石川 悦雄
総務課	主事 石津 晴菜	調査第三担当リーダー
課長 長友 英詞	主事 古田 陽	副主幹 福田 泰典
総務担当リーダー	主事 早瀬 航	主査 谷口 千尋
主幹 高山 正信	主事 深江 龍哉	主査 中田 憲治
主査 古市 篤志	調査第二担当リーダー	主査 若松 宏一
(高速道対策局・併)	主幹 菅付 和樹	主査 和田 理啓
主任主事 矢野 京子	主任主事 堀田 孝博	主査 松田 博幸
主事 遠目塚尚子	(高速道対策局・併)	(嘱託)
調査第一課	主査 安藤 利光	調査員 福田 光宏
課長 長津 宗重	主査 清藤 莊八	調査第四担当リーダー
調査第一担当リーダー	主査 島木 良浩	主幹 近藤 協
副主幹 南中道 隆	主査 日高 博司	主査 橋本 憲二
主査 田村 浩司	主査 土屋 雄毅	主査 黒木 俊彦
主任主事 松本 茂	主査 横山 正文	主査 平山十四郎
(高速道対策局・併)	主査 結城 修	主任主事 二宮 満夫
主査 出山 真次	主査 田中 敏雄	主事 森田 利枝
主査 崎田 一郎	主査 松林 豊樹	普及資料課
主査 吉野 達三	主任主事 嶋田 史子	課長(兼) 石川 悦雄
主査 黒木 秀一	主任主事 今塩屋毅行	主事 柳田 晴子
主査 山田 高大	主事 測ノ上隆介	(嘱託)
主査 山田 享志	主事 堀口 悟史	専門員 津隈久美子
主査 竹田 享志	主事 日高 優子	
主査 高橋 浩子	主事 田中 達也	
主査 黒木 誠司	主事 児玉 幹	
主任主事 藤木 聡	主事 小船井 順	
主任主事 重留 康宏		
主事 松元 一浩		

施設

(本館) 宮崎市佐土原町下那珂4019

① 本館 (鉄筋コンクリート造一部木造平屋建) 2,656.50m²

事務室	57.76m ²
所長室	19.86m ²
情報処理室	33.17m ²
会議室	78.52m ²
休憩室	78.52m ²
調査研究室	248.55m ²
復元整理室	293.44m ²
一次処理室	96.81m ²
図面整理室	61.62m ²
写場	64.20m ²
暗室	12.65m ²
一次保管室 (2層)	188.00m ²
図書室 (2層)	193.88m ²
荷捌室	43.01m ²
その他	276.00m ²
小計	1,745.99m ²

② 附属建物 (鉄骨造)

整理作業棟	216.76m ²
-------	----------------------

③ 附属建物 (鉄骨造)

収蔵庫棟	693.75m ²
------	----------------------

(分館) 宮崎市神宮2丁目4-4

分館 (鉄筋コンクリート造2階建) 1,652.38m²

1階	877.58m ²	2階	774.80m ²
一次処理室	121.20m ²	写場・暗室	49.30m ²
復元整理室	148.30m ²	写真保管室	35.10m ²
保存処理室	49.30m ²	図面保管室	53.10m ²
(鉄器)	22.70m ²	収蔵整理室	19.30m ²
(木器)	26.60m ²	収蔵室	564.00m ²
研修室	143.20m ²	特別収蔵室	54.00m ²
事務室	41.80m ²		
展示室	150.00m ²		
器材庫	11.00m ²		
エントランスホール他	212.78m ²		

II 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事 項
1980 1981 1982	昭55. 56. 57. 1. 9 7. 29 10. 2	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案。 基本設計を実施。 起工式。 竣工。 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明(兼博物館副館長)以下本務職員2名(岩永哲夫、谷口武範)、兼務職員8名、嘱託2名発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」(講師:国立民俗学博物館教授佐々木高明)。
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名(茂山護、岩永哲夫、谷口武範)に増員する。
1984	59. 4. 1	(茂山転出、菅付和樹転入)
1985	60.11. 2	文化財保護強調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7.	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3. 62. 4.	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、蓮ヶ池横穴墓群-遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3. 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」刊行。 センター長長友巖発令。本務職員1名(菅付和樹)、兼務職員9名となる。
1989	平1. 4. 1	センター長石井祥博発令。本務職員1名(永友良典)、兼務職員11名となる。
1990	2. 3. 4. 1.	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳-遺物編」刊行。 兼務職員が13名となる。
1991	3. 3. 4. 1.	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡-資料編1」刊行。 センター長木幡文夫発令。 設備充実の一環として、軟X線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展'82-'91」を開催する。脱塩装置、赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9.15	センター長後藤健志発令。本務職員1名(長津宗重)、兼務職員15名となる。 空調設備増設。
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置。
1995	7. 1.29 2.16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成。 屋根防水工事完了。 センター長関屋清志発令。本務職員1名(長津宗重)、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係(調査部門)を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係(第二係兼務)を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室(旧婦人相談所:宮崎市鶴島2丁目11-25)を設置し、調査第一係(東九州自動車道担当)を置く。
1997	9. 3.17	分室を国富(旧国富農業改良普及センター:国富町大字本庄4777-2)に移転する。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名になる。
2000	12. 1.20 4. 1	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の旧本館を分室とする。 所長矢野剛発令。課制となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。 職員52名、非常勤12名となる。 分館(研修室、事務室、図面保管室、写真保管室)改築工事完成。
2001	13. 4. 1 7. 1	職員59名、非常勤16名となる。 調査研究室設置。
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員63名、非常勤17名となる。
2003	15. 4. 1	職員64名、非常勤15名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮岡淳一発令。職員62名(うち任期付き職員13名採用)、非常勤職員12名となる。 収蔵庫用に旧醸検定工場を農政企画課から所管換え。
2005	17. 3. 8 4. 1 8.18 11.16	収蔵第一期工事完成。 職員61名(うち任期付き職員7名採用)、非常勤職員9名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査一課整理棟の設置。(東畦原整理作業棟撤去に伴い貸借開始)
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員64名(うち任期付き職員18名)、非常勤職員8名となる。
2007	19. 6. 1	職員64名(うち任期付き職員19名)、非常勤職員3名となる。
2008	20. 4. 1 5. 1	所長福永展幸発令。職員61名(うち任期付き職員16名)、非常勤職員1名となる。 職員61名(うち任期付き職員16名)、非常勤職員2名となる。

Ⅲ 平成19年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

平成19年度は以下に記述する事業を実施した。

1 埋蔵文化財緊急調査

(1) 発掘調査

東九州自動車道や国道をはじめ、国、県施設の建設に伴う試掘確認調査や発掘調査を実施している。本年度は中山遺跡（日向市）、中野内遺跡（延岡市）、山之城跡（宮崎市）、平峰遺跡（都城市）などの遺跡の本調査と東九州自動車道建設関連の試掘確認調査を実施した。

平成19年度試掘確認調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	宮鶴第2遺跡	北郷町	縄文早期	なし	土器(塞ノ神式等)、石器(剥片)	H19. 7. 2	155m ²	崎田一郎 吉野達三 堀田孝博 古田 陽 佐竹智光	東九州自動車道(清武～日南間)建設
						/			
						H19. 7. 18			
						H19. 9. 25	58m ²		
						/			
H19. 9. 26									
H19. 12. 10	53m ²								
/									
H19. 12. 11									
2	宮鶴第2遺跡隣接地	北郷町	—	なし	なし	H19. 7. 2	74m ²	崎田一郎 堀田孝博 佐竹智光	東九州自動車道(清武～日南間)建設
						/			
						H19. 7. 18			
						H19. 12. 10	15m ²		
						/			
H19. 12. 11									

平成19年度発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	中山遺跡	日向市 大字塩見	旧石器	曲輪、帯曲輪、通路状遺構、堀切、掘立柱建物跡、溝状遺構、土墳墓	剥片尖頭器、剥片	H19. 4. 5	10,200m ²	田中敏雄 島木良浩 嶋田史子 小船井順 児玉 幹	東九州自動車道(門川～日向間)建設
			縄文時代 中世～近世		石鏃	H19. 12. 20			
				土師器、陶磁器(青磁、白磁、青花、備前焼、肥前染付等)、土錘、石臼片					

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
2	塩見城跡	日向市 大字塩見	中世～近 世	曲輪、帯曲 輪、掘立柱 建物、堀切、 土塁、石組 遺構、排水 施設	陶磁器（青磁、 白磁、青花、備 前焼、古瀬戸、 肥前染付）、土 錘、五輪塔	H19. 7. 2 / H20. 3. 31 (H20年度 へ継続)	5,600㎡	湖ノ上隆介 田中達也 堀口悟史	東九州自 動車道（門 川～日向 間）建設
3	野首第2 遺跡 (二次)	児湯郡 高鍋町	旧石器 縄文早期 縄文後期 ～晩期 古墳中期	礫群 集石遺構・炉 穴・ピット群 竪穴住居、ピ ット群 竪穴住居、ピ ット群	ナイフ形石器・ 角錐状石器・ス クレイバー・剥片 押形文土器 縄文土器片・石 斧・石錘 土師器片	H19. 7. 17 / H19. 12. 28	1,150㎡	石津晴菜 松元一浩 田村浩司 黒木秀一	東九州自 動車道（都 農～西都 間）建設
4	野首第2 遺跡 (三次)	児湯郡 高鍋町	旧石器 縄文早期 縄文後期 ～晩期 古墳中期	礫群 集石遺構・炉 穴・ピット群 竪穴住居、ピ ット群 竪穴住居、ピ ット群	ナイフ形石器・ 角錐状石器・ス クレイバー・剥片 押形文土器 縄文土器片・石 斧・石錘 土師器片	H20. 1. 28 / H20. 3. 31 (H20年度 へ継続)	1,230㎡	石津晴菜 松元一浩 黒木秀一	東九州自 動車道（都 農～西都 間）建設
5	中野内遺 跡 (一次)	延岡市 北浦町	弥生中期 古墳中期 中世	ピット、竪穴 住居	土器片 弥生土器片、高 坏 椀	H19. 10. 2 / H19. 10. 11	204㎡	崎田一郎 堀田孝博 佐竹智光	東九州自 動車道（県 境～北川 間）建設
6	中野内遺 跡 (二次)	延岡市 北浦町	弥生中期 古墳中期 中世	竪穴住居、ピ ット群	弥生土器 土師器、須恵 器、台石、土師 器片	H19. 12. 5 / H20. 3. 21	8,545㎡	古田 陽 崎田一郎 吉野達三 田村浩司 堀田孝博	東九州自 動車道（県 境～北川 間）建設
7	海舞寺第 1遺跡	延岡市 北浦町	なし	なし	なし	H20. 2. 18 / H20. 2. 21	72㎡	田村浩司 堀田孝博 岡田 諭	東九州自 動車道（県 境～北川 間）建設
8	海舞寺第 2遺跡	延岡市 北浦町	中世	ピット、横穴 墓	石塔、陶器片	H20. 2. 18 / H20. 2. 21	188㎡	田村浩司 堀田孝博 岡田 諭	東九州自 動車道（県 境～北川 間）建設
9	市之串第 1遺跡	延岡市 北浦町	なし	なし	なし	H20. 2. 18 / H20. 2. 21	62㎡	田村浩司 堀田孝博 岡田 諭	東九州自 動車道（県 境～北川 間）建設
10	鳴川引地 遺跡	延岡市 北浦町	なし	なし	なし	H20. 2. 18 / H20. 2. 21	20㎡	崎田一郎 堀田孝博 岸田裕一	東九州自 動車道（県 境～北川 間）建設
11	森ノ上遺 跡	延岡市 北浦町	縄文早期	なし	縄文土器片、剥 片	H20. 2. 18 / H20. 2. 21	216㎡	崎田一郎 堀田孝博 岸田裕一	東九州自 動車道（県 境～北川 間）建設

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
12	カラ石の元遺跡	延岡市 熊野江町	弥生 中世	ピット	磨石 石塔	H20. 2.18 / H20. 2.21	48m ²	崎田一郎 堀田孝博 岸田裕一	東九州自動車道(県境～北川間)建設
13	楠牟礼1号地下式横穴墓	小林市 大字堤	古墳時代	地下式横穴墓	剣、短剣、鉄鍬 刀子、鉈、人骨	H19. 5.18 / H19. 5.28	9m ²	丹 俊詞	平成18年度交通安全整備事業一種(国道)国道221号下堤工区歩道設置工事
14	曾井第2遺跡(二次)	宮崎市 大字恒久	近世	石塔群	板碑、無縫塔、 経石	H19. 5.24 / H19. 6.28	100m ²	和田理啓	一般国道296号(加納バイパス)交通円滑化事業
15	堀川運河(第10次調査)	日南市 大字春日町	大正～昭和	運河護岸石積み	—	H19. 8.20 / H19. 8.22	1.5m ²	柳田裕三 福田泰典 甲斐貴充	堀川運河港湾環境整備事業
16	山之城跡	宮崎市 古城町	古代～中世	掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構	輸入陶磁器、東播系須恵器、土師器、須恵器	H19. 8.20 / H19. 9.26	18,000m ² (内実掘940m ²)	和田理啓	主要地方道西環状線(北川内工区)地方道路交付金事業
17	旭2丁目遺跡	宮崎市 旭	弥生前期～中期 中世～近世 近代	自然流路 掘立柱建物群、井戸、土坑 畑跡	弥生土器 国産陶磁器、輸入青磁・白磁、土師器、石臼	H19. 7. 6 / H19. 9.10	330m ²	二宮満夫 若松宏一	宮崎地方裁判所増築
18	平峰遺跡	都城市 平塚町	古墳時代 古代～中世	竪穴住居、小鍛冶場 土坑、溝状遺構、道路状遺構	甕、高坏、坏、碗、柑、軽石製品、鉄鍬、玉土師器(坏、墨書土器)	H19. 5.23 / H20. 3.21	14,500m ²	橋本憲二 谷口千尋 森田利枝 福田光宏 甲斐康大	一般国道10号都城道路建設
19	住吉B遺跡	川南町 大字川南	旧石器 縄文早期	集石遺構	ナイフ形石器 縄文土器、石鍬、磨石	H19.11.19 / H20. 2.15	2,250m ²	二宮満夫	国営尾鈴農業水利事業
20	赤石遺跡	川南町 大字川南	縄文中期～晩期 弥生中期	竪穴住居、土坑 竪穴住居、土坑	船元式土器、条痕文土器、石鍬、石斧、磨・敲石、砥石、石錘 下城式土器、台石、磨製石鍬	H19.11.19 / H20. 1.21	290m ²	谷口千尋 若松宏一 森田利枝	国営尾鈴農業水利事業

(2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な調査を要する遺跡の調査にあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の専門の研究者を招聘した。また、時代のはっきりしない遺物や考古学以外の分析を必要とする遺物について職員を派遣し指導を受けた。

調査指導

所属・氏名	指導内容	場所	日程
独立行政法人奈良文化財研究所 文部技官 牛嶋 茂	東九州自動車道（西都～都農間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書作成に係る調査指導	埋蔵文化財センター本館	H19. 9. 3～ 5
佐賀県教育庁文化課 主 査 宮武 正登	東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う中山遺跡・塩見城跡の遺構の評価及び縄張り図作成についての調査指導	中山遺跡・塩見城跡	H19.11.15～16
奈良大学文学部文化財学科 准 教 授 千田 嘉博	東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う塩見城跡発掘調査に係る調査指導	塩見城跡	H20. 1.22～23

資料調査

目的	出張先	日程	出張者
東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う中山遺跡発掘調査に係る資料調査	えびの市歴史民俗資料館	H19. 7.13	田中敏雄／堀田孝博 瀧ノ上隆介／児玉 幹
東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う中山遺跡発掘調査に係る資料調査	神奈川県小田原市教育委員会 千葉県佐倉市国立歴史民俗博物館	H19. 8. 6～ 7	田中敏雄／児玉 幹
都城道路建設に伴う平峰遺跡検出多角形住居に係る資料調査	兵庫県養父市八鹿町高柳 ナベ遺跡 兵庫県立考古学博物館	H20. 1.21～23	森田利枝
東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う野首第2遺跡等発掘調査報告書作成における資料調査	財団法人大阪府文化財センター	H20. 1.22～23	重留康宏
東九州自動車道（西都～都農間）建設に伴う野首第2遺跡発掘調査報告書のデジタル化・情報管理システム・旧石器時代の細石刃石器群に関する資料調査	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター	H20. 1.28～29	松本 茂

目的	出張先	日程	出張者
東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う市納上第2遺跡等発掘調査報告書作成における資料調査	千葉県市原市埋蔵文化財センター	H20.1.31～2.1	岡田 諭
都城道路建設に伴う平峰遺跡検出多角形住居に係る資料調査	鳥取県 妻木晩田遺跡事務所 鳥取県 大山町教育委員会	H20.2. 6～ 8	橋本憲二

(3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。本年度に整理を実施した遺跡は24遺跡で、内訳は東九州自動車道関係及び一般国道10号等西日本高速道路株式会社、国からの受託事業が17遺跡、県土木事務所関係5遺跡、県港湾事務所関係1遺跡、県関係1遺跡である。

また、整理作業の終了した18遺跡については発掘調査報告書を刊行した。

出土遺物等整理対象遺跡一覧

事業名	東九州自動車道（都農～西都間）建設
事業者	西日本高速道路株式会社九州支社宮崎工事事務所
遺跡名	尾立第2（朝倉）遺跡、市納上第2遺跡、中ノ迫第2遺跡、尾花A遺跡、南中原第1遺跡、南中原第1遺跡（二次）、野首第2遺跡、宮ノ東遺跡、牧内第1遺跡、野首第2遺跡（二次）

事業名	東九州自動車道（門川～日向間）建設
事業者	西日本高速道路株式会社九州支社延岡高速道路事務所
遺跡名	板平遺跡、中山遺跡

遺跡名	事業名	事業者
筆無遺跡	地域連携推進道路整備事業 都城東環状線（今町工区）	都城土木事務所
曾井第2遺跡 曾井第2遺跡 （二次）	一般国道269号交通円滑化事業	宮崎土木事務所
山之城跡	主要地方道西環状線（北川内工区）地方道路交付金事業	宮崎土木事務所
堀川運河	堀川運河港湾環境整備事業	油津港湾事務所
楠牟礼1号地下式横穴墓	平成18年度交通安全整備事業一種（国道）国道221号下堤工区歩道設置工事	小林土木事務所
諸麦遺跡 平峰遺跡	一般国道10号都城道路建設	国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所
明野遺跡	国営尾鈴農業水利事業	農林水産省九州農政局尾鈴農業水利事業所
赤木遺跡（三次） 黒仁田遺跡	一般国道218号北方延岡道路建設	国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所
大島畠田遺跡	大島畠田遺跡整備活用支援事業	宮崎県

発掘調査報告書刊行一覧

集	報告書名	副書名	執筆・編集者
1 161	前ノ田村上第2遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書53	嶋田史子
2 162	南中原第1遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書54	堀口悟史
3 163	牧内第1遺跡（第一次～第三次）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書55	松田清孝／重留康宏
4 164	明野遺跡	国営尾鈴農業水利事業銀座第1ファームボンド工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	黒木俊彦
5 165	赤木遺跡第8地点（第三次調査）	一般国道218号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（4）	平山十四郎
6 166	筆無遺跡	都城東環状線（今町工区）道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	福田泰典／丹 俊詞 柳田裕三
7 167	中ノ迫第2遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書56	佐竹智光
8 168	諸麦遺跡	一般国道10号都城道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2	黒木俊彦
9 169	尾立第2遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書57	岸田裕一
10 170	市納上第2遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書58	立神勇志／岡田 諭
11 171	山之城跡	主要地方道西環状線（北川内工区）地方道路交付金事業	和田理啓／福田泰典
12 172	野首第2遺跡（第二分冊）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書59	松本 茂／重留康宏
13 173	宮ノ東遺跡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書60	藤木 聡
14 174	林遺跡 II	一般国道10号延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4	東 憲章／日高広人
15 175	曾井第2遺跡（第一次・第二次）	一般国道269号（加納バイパス）交通円滑化事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	甲斐貴充／和田理啓
16 176	板平遺跡	東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2	向江修一
17 177	堀川運河（第一次～第十次）	堀川運河港湾環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	甲斐貴充／柳田裕三
18 178	大島畠田遺跡	史跡整備活用支援事業	谷口武範

(4) 保存処理

保存処理室では、金属製品や木製品を保存処理している。宮崎県は、地下式横穴墓などから多量の金属製品が良好な状態で出土するため、年次的に金属製品の保存処理関係機器を整備してきた。木製品については、装置等が未設置であるため、委託あるいはバキュームシーラーでのパッキング等で対応している。また、市町村教育委員会からの備品の利用や保存処理の依頼についても受け入れている。本年度は、5遺跡の資料について樹脂含浸強化処理を行った。

保存処理・調査研究関係備品一覧

設置場所	機器名	製品名(規格)	製造会社名	購入年	備考
鉄器保存処理室 (分館)	送風定温乾燥機	DN-61型	ヤマト科学	1983	漏電ブレーカー
	定温乾燥機	DN-94型	ヤマト科学	1992	
	鉄器樹脂含浸装置	300×1200		1983	
	精密噴射加工機	POWER BLAST 50N	岡本歯研	1992	
	小型グラインダー	ミニタースタンダード	関東機器	1993	
	軟X線装置	ソフテックス SPC-1501	ソフテックス	1991	TVシステム
	小型空気圧縮機	EF-OUKT	日立製作所	1983	
	ドラフトチャンバー	CSF-K15	島津理化	1992	
木器保存処理室 (分館)	脱塩洗浄処理装置		滝口製作所	1992	
一次処理室 (分館)	超音波洗浄器	5200J4	シャープ	1991	
	卓上バキュームシーラー	SQ-202	サランラップ	1991	SQドレン付
復元処理室 (本館)	実体顕微鏡	SMZ-2T	ニコン	1991	写真撮影装置付
写場 (本館)	赤外線カメラ	IRRS-100	浜松ホトニクス	1992	

平成19年度鉄器保存処理実施遺跡

遺跡名	主な器種	保存処理
湯牟田遺跡	板状鉄斧(1点)	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
黒仁田遺跡	鉄鏃など(6点)	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
宮ノ東遺跡	鉄鏃・刀子・銭貨など(251点)	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
尾花A遺跡	鉄鏃・刀子など(167点)	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
中山遺跡	銭貨・金属製品など(10点)	土、錆を落とし、エタノール洗浄。

(5) 収蔵整理

① 収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。平成19年度末における収蔵量はコンテナ8,961箱である。

② 収蔵庫（本館）

平成18年度に完成した新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。平成19年度は、コンテナ1,342箱（報告書刊行済みの登録待機遺物の一部）を搬入した。これまでに搬入した分と合わせると、コンテナ8,727箱の収蔵量となった。

③ 登録作業

分館において実施している従来の登録法による平成19年度の実績は、5遺跡、コンテナ139箱である。よって、計166遺跡、コンテナ4,462箱となった。また累積し続ける未登録資料の解消を図るために、平成18年度から運用を始めた新登録法による登録の実績は11遺跡、コンテナ197箱である。よって、平成19年度の登録収蔵の総累計は、177遺跡、コンテナ4,659箱である。

④ 図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。平成19年度は3,253冊の受け入れがあり、合計収蔵数は57,243冊になる。バーコードを利用した図書管理システムを導入しており、パソコンを用いた図書類のデータベース登録を実施している。

2 教育普及活動

遺物公開として、常設展示および発掘調査の成果展（随時更新）を分館で行っている。なお、エントランスホールからは遺物整理作業を見学できる。

埋蔵文化財に親しめる事業として「ここまでわかったひむかの歴史～講演会と遺物公開～」と題して年6回、講演と遺物公開を行った。また、「ひむかの歴史2007～遺跡発掘速報会～」と題して8月に、平成18年度の発掘調査の速報会を県立図書館で開催した。さらに、11月の文化財保護強調週間に合わせて、毎年恒例の「埋文センター施設公開」を本館・分館で同時開催した。

その他に、学校及び生涯学習団体等を支援することを目的として、出前講座や埋文センターミニ巡回展、発掘体験を行った。

(1) 遺物公開

① 常設展示

- ・下耳切第3遺跡（高鍋町）出土縄文時代深鉢（正面ケース）
- ・山内石塔群（宮崎市）出土五輪塔（中庭）
- ・内野々遺跡（美郷町）火山灰土層断面剥ぎ取りパネル・集石遺構モデル
- ・西畦原第2遺跡（新富町）陥し穴剥ぎ取りパネル
- ・野首第1遺跡（高鍋町）、山田遺跡（延岡市）出土の火打石
- ・埋蔵文化財・宮崎の歴史年表・発掘調査に関する解説パネル及び発掘調査に必要な道具など

② 発掘調査の成果展（随時更新）

事業・遺跡名	公開内容
「東九州自動車道関連発掘調査（西都～清武間）」 町屋敷遺跡（宮崎市）	弥生時代・古墳時代の壺、甕など クスノキ製大鉢、塚跡の杭などの出土木製品
「東九州自動車道関連発掘調査（西都～清武間）」 上ノ原遺跡・長齒原遺跡（宮崎市）	旧石器時代の遺物と石材の色の関係 剥片尖頭器、ナイフ形石器と各地の原石
「主要地方道宮崎島之内線ふるさと県道整備事業」 山崎上ノ原第1遺跡（宮崎市）	20号竪穴住居跡（古墳時代）出土の土師器 銅製馬鈴など
「一般国道269号交通円滑化事業」 曾井第2遺跡（宮崎市）	永正18年（1521年）の六地藏幢の拓本
「一般県道清武インター線道路改築事業」 竹之内遺跡（清武町）	土坑内で入れ子状態で出土した市来式土器群 軽石製岩偶、チャート製石偶、翡翠製装飾品など

(2) ここまでわかったひむかの歴史～講演会と遺物公開～

年間6回（5、7、10、12、1、3月）の第4土曜日の午後1時30分から3時まで分館研修室で講演会を実施している。その講演会に先立ち、前後の約2カ月間、関連する遺物公開を実施した。なお、講師は当センターの職員が務めた。

講演日及び講演名等

開催日	講演名	講師	参加者
第1回 H19. 5. 26	「焼け落ちた弥生ムラ」 湯牟田遺跡（川南町）	宮崎県埋蔵文化財センター 松元 一浩	29名
第2回 H19. 7. 28	「器（うつわ）で読み解く近世屋敷」 野首第1遺跡（高鍋町）	宮崎県埋蔵文化財センター 堀田 孝博	34名
第3回 H19. 10. 27	「縄文時代の日常風景」 尾小原遺跡（新富町）	宮崎県埋蔵文化財センター 岡田 諭	16名
第4回 H19. 12. 22	「旧石器時代の生活復元」 赤木遺跡第8地点（延岡市）	宮崎県埋蔵文化財センター 甲斐 貴充	12名
第5回 H20. 1. 26	「顕微鏡でみる縄文土器」 吉牟田遺跡（高原町）	宮崎県埋蔵文化財センター 柳田 裕三	32名
第6回 H20. 3. 22	「ゴミ事情・今昔」 永牟田第2遺跡（新富町）	宮崎県埋蔵文化財センター 嶋田 史子	18名

(3) ひむかの歴史2007 ～平成18年度遺跡発掘速報会～

平成18年度に発掘調査を実施した遺跡から、地域、時代、事業などを考慮して9遺跡を選び、県立図書館において遺跡発掘速報会を行った。

開催日	時間	場所	参加者
H19. 8. 25	10:30～16:00	県立図書館	144名

	遺跡名	報告内容	担当者
1	立野遺跡（小林市）	肥後と日向の弥生土器	丹 俊詞
2	明野遺跡（川南町）	遺物は動く？	黒木 俊彦
3	黒仁田遺跡（延岡市）	住居の中をのぞいてみたら	平山十四郎

	遺跡名	報告内容	担当者
4	板平遺跡（日向市）	車輪石って何だろう？！	向江 修一
5	中山遺跡（日向市）	中世舶来品の輝き	田中 敏雄
6	池ノ下遺跡（日向市）	旧石器のJavelin Throw	土屋 雄毅
7	南中原第1遺跡（高鍋町）	さかなとりって楽しい！	島木 良浩
8	北牛牧第5遺跡（高鍋町）	水に流された遺物たち	安藤 利光
9	尾花A遺跡（川南町）	焼け落ちた住居からさぐる	結城 修
		尾花の土を洗ってびっくり！	日高 博司
		古代人の道具	出山 真次

(4) 埋文センター施設公開

毎年11月第1週の文化財保護強調週間に施設公開を実施している。本年度は、11月3日に本館と分館の2会場で施設を同時に公開した。

開催日	内容	参加者
H19.11.3	○体験コーナー ・本物の土器を持つての記念写真 ・実測 ・トレース ・土器の洗浄 ・土器の拓本 ・土器の接合 ○見学・観察コーナー ・出土遺物公開 ・実体顕微鏡（火山灰観察） ・収蔵庫見学 ・赤外線TV装置（分館のみ）	本館 105名 分館 107名

(5) 出前講座

埋蔵文化財センター職員が、要請のあった各地域に出向いて、高齢者クラブや小・中学校等を対象とした埋蔵文化財出前講座を行っている。

開催日	時間	依頼者	内容	参加者
H19. 5.30	9:45~11:25	都城市立高城小学校	縄文～古墳時代の遺構や遺物を学校周辺の遺跡も含め説明	71名
H19.12.13	15:35~16:25	宮崎市立青島中学校	縄文時代について学校周辺の遺跡出土の遺物を使用し説明	91名
H20. 1.24	—	宮崎県立宮崎西高等学校 附属中学校	縄文時代の遺物の学習キット貸出 （総合的な学習の時間での使用）	—

(6) ミニ巡回展

今までに発掘した県内各地の遺跡の写真や出土した遺物などを、各地域で展示し、埋蔵文化財センターの業務内容についての理解を深める一助とすることを目的として実施している。本年度は県立図書館において実施した。

	開催期間	時間	場所	内容
1	H19. 8.21 / H19. 9.24	8:30~18:00	県立図書館	人々が古代から「生きる」ために何を創意工夫してきたか「食・葬・探る・航・装・漁・獲」の視点から、上の原第2遺跡、湯牟田遺跡、平田遺跡、中山遺跡、竹ノ内遺跡、野首第1遺跡出土の遺物を展示

(7) 発掘体験

郷土の歴史への興味・関心を高め、埋蔵文化財を大切にすることを育てること、さらに埋蔵文化財センターの業務内容についての理解を深める一助とすることを目的として実施している。本年度は、平峰遺跡において実施した。

開催日	開催地・内容	参加者
H19.8.19(日)	平峰遺跡(都城市) (1) 現場と埋蔵文化財センターの仕事について説明 (2) 発掘体験(住居掘り・ピット掘り・鋤簾作業・溝掘り) (3) 測量器材(レベル)の取り扱い実演と体験 (4) 遺物解説・圧痕跡の話	37名



施設公開の様子(拓本)



発掘体験の様子

(8) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用(資料の閲覧・実測等)や館外貸出及び掲載許可があり、本年度は館内利用が18件、館外貸出が9件、掲載許可が3件であった。

館内利用

遺跡・利用資料	利用者	利用目的	利用日
矢野原遺跡、阿蘇原上遺跡、上ノ迫遺跡、唐木戸第3遺跡、牧内第2遺跡、勘大寺遺跡(二次)、吉野第2遺跡、山田遺跡、野首第2遺跡、赤木遺跡第8地点(二次)	個人	資料調査	H19. 5.22
西ノ別府遺跡(小型仿製鏡)	個人	資料調査	H19. 6. 8
下耳切第3遺跡、竹ノ内遺跡(石皿・磨石類)	個人	資料調査	H19. 7. 9 ~11
山田遺跡、勘大寺遺跡(一次)、勘大寺遺跡(二次)、野首第2遺跡、小並第1遺跡(石器)	個人	資料調査	H19. 7.17 ~19
野首第2遺跡、勘大寺遺跡(二次)、赤木遺跡第8地点(二次)、小並第1遺跡、山田遺跡、唐木戸第3遺跡(石器)	個人	資料調査	H19. 8. 4 ~ 5
小並第1遺跡、湯牟田遺跡(二次)、吉野第2遺跡、赤木遺跡第8地点(二次)、中ノ迫第1遺跡(一次・二次)、登り口第1遺跡、東畦原第1遺跡、国光原遺跡、朝草原遺跡、尾立第3遺跡、永牟田第2遺跡(石器)	個人	資料調査	H19. 8. 4 ~ 5

遺跡・利用資料	利用者	利用目的	利用日
尾小原遺跡（一次）、永牟田第2遺跡、野門遺跡、東畦原第1遺跡（一次）、登り口第1遺跡、藤山第1遺跡、中ノ迫第1遺跡（一次・二次）、中ノ迫第3遺跡、赤木遺跡第8地点（二次）、山田遺跡、朝草原遺跡・尾立第3遺跡、八幡第2遺跡、国光原遺跡、尾小原遺跡（三次）、赤坂遺跡、湯牟田遺跡（二次）、勘大寺遺跡（二次）、吉野第2遺跡、立野第5遺跡、立野第2遺跡、野首第1遺跡Ⅱ、野首第2遺跡（第1分冊）、小並第1遺跡（石器）	個人	資料調査	H19. 9. 8 ～ 9
阿蘇原上（笹の都）遺跡、霧島遺跡、堂地西遺跡、別府原遺跡、塚原遺跡、国光原遺跡（土器）	個人	資料調査	H19. 9.26
八尾遺跡、蓮ヶ池横穴群等（報告書）	個人	資料調査	H19.10.16
堂地西遺跡、阿蘇原上遺跡、赤石・天神本遺跡（隆帯文土器と共伴する石器製品）	団体	資料調査	H19.11. 2
尾花坂上遺跡、今井野第2遺跡、音明寺第1遺跡、吉野第2遺跡、野首第2遺跡、木脇遺跡、白ヶ野第2・3遺跡、田向遺跡、日早渡遺跡、妙見遺跡（土器）	個人	資料調査	H19.11.10
鶴野内中水流遺跡、柳迫遺跡、塚原遺跡、鴉野遺跡、本宮遺跡、野首第1遺跡、下那珂遺跡、湯牟田遺跡（第二次調査）、平田遺跡D地点・E地点（土器：甌・甕・壺）	個人	資料調査	H19.11.21
阿蘇原上遺跡、赤石・天神本遺跡、木脇遺跡、塚原遺跡（旧石器・土器）	個人	資料調査	H20. 1.30
尾小原遺跡（一次）、中ノ迫第3遺跡、野門遺跡、野首第1遺跡Ⅱ、野首第2遺跡、立野第5遺跡、立野第2遺跡、小並第1遺跡、吉野第2遺跡、山田遺跡、勘大寺遺跡（二次）、東畦原第1遺跡（一次）、音明寺第2遺跡、音明寺第2遺跡（二次）、高野原遺跡第5地点、矢野原遺跡、春日地区遺跡第2地点、前ノ田村上第1遺跡（旧石器）	個人	資料調査	H20. 2. 2 ～ 3
塚原遺跡、迫内遺跡、山崎下ノ原第1遺跡、下耳切第3遺跡（弥生～古墳時代の玉類）	個人	資料調査	H20. 3. 4
野首第2遺跡、中ノ迫第3遺跡、野門遺跡、立野第5遺跡、立野第2遺跡、野首第1遺跡Ⅱ、勘大寺遺跡（二次）（旧石器）	個人	資料調査	H20. 3. 8 ～ 9
志戸平遺跡（三次）（木器）	個人	資料調査	H20. 3.11
下屋敷遺跡、塚原遺跡、下星野遺跡、南学原第1遺跡、阿蘇原上遺跡、小並第1遺跡（旧石器、縄文時代草創期土器）	個人	資料調査	H20. 3.17 ～ 21

館外貸出

貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
西ノ別府遺跡 仿製重圏文鏡	1点	企画展「鏡が映したもの」での展示	H19. 6.30 H19. 9.10	県立西都原考古博物館
天神河内第1遺跡、木脇遺跡等 打製石鏃、前期中頃の住居跡出土甕等	257点	展示関係	H19. 4. 1 H20. 3.31	県立西都原考古博物館
野門遺跡、平田遺跡等 有茎磨製石鏃、鉄矛等	178点	企画展「日向・薩摩・大隅の原像—南九州の弥生文化—」での展示	H19. 9.10 H19.12.28	県立西都原考古博物館
下耳切第3遺跡、下大五郎遺跡等 牛牧1号墳全景、長頸壺出土状況写真等	27点	企画展「日向・薩摩・大隅の原像—南九州の弥生文化—」での展示	H19. 7.13 H19.10.12	大阪府立弥生文化博物館
山崎上ノ原第2遺跡、古城遺跡、布平遺跡等 装飾具（滑石製）等	8点	研修講座「授業に役立つおもしろ講座（教員対象）」での展示・観察	H19. 8. 6 H19. 8.12	県立西都原考古博物館
野添遺跡 マメⅠ類（マメ様を含む小粒炭化物）等	131点	特別展「先史時代農耕と九州山地の焼畑」での展示	H19. 8.31 H19.10.12	椎葉民俗芸能博物館
日守地下式、前畑遺跡等 溝状遺構、住居跡、石鏃等写真	6点	（株）鉦脈社「古代日向・神話と歴史の間」への執筆	H19.11.26 H19.11.30	県立西都原考古博物館

貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
枯木ヶ迫遺跡、車坂遺跡、六地藏の拓本 龍泉窯系端反り青碗・皿、白磁碗、拓本等	33点	企画展「城からみた宮崎の歴史」での展示	H20. 1.22 H20. 3. 2	みやざき歴史文化館
阿蘇原上遺跡、矢野原遺跡、蔵田遺跡等 旧石器、縄文土器、遺跡写真等	574点	企画展「やってきたきた きた 県北調査展」での展示	H20. 2. 1 H20. 3.24	県立総合博物館

刊行物等掲載（写真提供）

資料名	掲載刊行物	依頼者	申請日
堂地西遺跡 隆線土器写真	(株)至文堂月刊誌『日本の美術』『縄文土器草創期早期』の発行	(株)至文堂	H19. 5.25
堂地東遺跡、塚原遺跡等 土器（壺・甕）、石器（軽石製品）等	企画展「日向・薩摩・大隅の原像—南九州の弥生文化—」の展示に伴う広報資料	大阪府立弥生文化博物館	H19. 6.27
日守地下式、前畑遺跡、都於郡城、平畑遺跡、前田遺跡 ポジ「斗」「溝状遺構」 ネガ「堀」 スライド「住居跡」、「大足」、「石鏃」	(株)鉦脈社「古代日向・神話と歴史の間」出版に伴う執筆	個人	H19.11.19

(9) 見学・研修・体験学習等の受入れ

埋蔵文化財センターや発掘調査現場の見学や研修、体験学習を取り入れる学校や教育機関が増加している。本年度は施設見学、インターンシップ、職場体験学習等が実施され、児童・生徒や学生等をはじめ広く県民を受け入れた。

内容	場所	依頼者	実施日	参加者
施設見学	埋蔵文化財センター分館	川南町老人会	H19. 5.29	16名
施設見学	埋蔵文化財センター分館	川南町長寿会	H19. 6.20	27名
職場体験学習	埋蔵文化財センター本館	宮崎県立宮崎南高等学校	H19. 7.25	1名
教職経験10年経過研修	平峰遺跡	都城市教育委員会	H19. 8. 1	1名
初任者研修	中山遺跡	日向市教育委員会	H19. 8. 2	9名
インターンシップ	埋蔵文化財センター分館 平峰遺跡	県総務部人事課	H19. 8. 6～10	1名
教職経験10年経過研修	中山遺跡	日向市教育委員会	H19. 8. 9	11名
施設見学	埋蔵文化財センター本館	宮崎市立去川小学校	H19.10.16	10名
教職経験10年経過研修	埋蔵文化財センター本館 野首第2遺跡	県教育研修センター	H19.10.24～26	18名
施設見学	埋蔵文化財センター分館	西諸県地区社会教育委員 連絡協議会	H19.10.25	28名
施設見学	埋蔵文化財センター本館	県立西都原考古博物館	H19.11.22	3名
教科研修視察	埋蔵文化財センター分館	宮崎県立本庄高等学校	H19.12. 6	14名
現場・施設見学	平峰遺跡 埋蔵文化財センター分館	大阪府立弥生文化博物館	H20. 2. 5	48名
専門的資質の向上	埋蔵文化財センター分館	県立西都原考古博物館	H20. 2.24	25名
施設見学	埋蔵文化財センター分館	都城市立御池小学校PTA	H20. 2.29	8名

(10) 広報出版物

埋蔵文化財保護啓発活動の一環として、埋蔵文化財センターの「事業案内」及び「埋文通信」の発行や「ここまでわかったひむかの歴史」、「ひむかの歴史2007」、施設公開等についてもポスターやパンフレット、資料等の作成・刊行を行っている。

	広報出版物	発行年月
1	平成20年度宮崎県埋蔵文化財センター「事業案内」	H20. 3
2	埋蔵文化財通信「みやざき」9号	H20. 3

(11) ホームページ

本年度は、現地説明会や発掘体験などの事業の案内・報告の内容充実、発掘情報のリアルタイムでの情報提供を行いながら、並行して内容の検討を行った。従来の項目の他、考古学、その他いろいろな知識についてアラカルト的に紹介する「知識の豆蔵」の項目を追加し、内容の充実を図った。

(12) 現地説明会及び成果報告会

本年度は現地説明会を2現場、成果報告会を1か所で実施した。

現地説明会

	遺跡名	所在地	期日	参加者	事業内容
1	平峰遺跡現地説明会	都城市	H19.10.21	102名	一般国道10号都城道路建設
2	中山遺跡現地説明会	日向市	H19.12. 2	72名	東九州自動車道

成果報告会

	遺跡名	実施場所	期日	参加者	事業内容
1	宮ノ東遺跡	県立西都原考古博物館	H20. 2.24	56名	東九州自動車道



現地説明会の様子（平峰遺跡）



現地説明会の様子（中山遺跡）

(13) 職員派遣

市町村の教育委員会に埋蔵文化財の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

内容	派遣期日	依頼者	派遣職員
歴史文化講座「中世の日向について」	H19. 5.13	みやざき歴史文化館	堀田 孝博
山中遺跡群発掘調査に伴う調査指導	H19. 7. 2	小林市教育委員会	藤木 聡
西南戦争関連遺跡調査	H19. 8. 1・7	県立西都原考古博物館	堀田 孝博
考古博講座「縄文時代の人々と暮らし」	H19. 9. 8	県立西都原考古博物館	柳田 裕三
歴史文化講座「宮崎の水を考える」	H20. 1.12	みやざき歴史文化館	藤木 聡
清武町町史編纂関連指導	H20. 3.11	清武町教育委員会	福田 泰典

(14) 埋蔵文化財担当専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を実施している。

内容	場所	期日	参加者数
埋蔵文化財担当専門職員研修会 (1) 中近世石塔群の調査について	みやざき歴史文化館	H19.10.24	市町村担当 28名 県関係者 1名 センター職員 24名 計53名
埋蔵文化財担当専門職員研修会 (2) 中世山城調査について	日向市立塩見小学校図書室 および塩見城跡	H20. 1.23	市町村担当 23名 県関係者 3名 センター職員 28名 計54名

3 会議・職員研修

(1) 各種会議等への参加

独立行政法人奈良文化財研究所で実施している発掘技術者研修や全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

内 容	日 程	開催地	出席者
九州各県・政令指定都市博物館連絡会議	H19. 5.24 H20. 1.17・18	福岡県太宰府市 佐賀県有田町	堀田 孝博
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	H19. 5.24	鳥根県松江市	長津 宗重
県地方史研究連絡協議会総会	H19. 6. 7	宮崎市	福田 泰典
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	H19. 9. 6～7	鹿児島県鹿児島市	近藤 協
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会役員会	H19.11. 1～2	岡山県岡山市	石川 悦雄
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会	H19.11.21～22	沖縄県沖縄市	堀田 孝博
文化庁埋文担当職員等講習会	H20. 1.10～12	兵庫県姫路市	今塩屋毅行
遺跡整備・活用研究集会	H20. 1.25～26	奈良文化財研究所	二宮 満夫
埋蔵文化財担当者専門研修「地質環境調査課程」	H20. 2.21～28	奈良文化財研究所	嶋田 史子

(2) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、各講習会へ参加している。

内 容	日 程	参加者
地山掘削・土止め支保工作業主任者技能講習会	H19. 4.24～26	松林 豊樹
有機溶剤作業主任者講習会	H19. 5. 8～9	向江 修一 和田 理啓 藤木 聡
安全衛生推進者養成講習	H19. 5.15～16	石津 晴菜 田中 敏雄 小船井 順 谷口 千尋 橋本 憲二 森田 利枝
救急講座（救命・応急手当）	H19. 5.30 H19. 5.31	総務課・調査第一課・調査第二課・普及 資料課
衛生管理者試験受験準備講習会	H19. 6.25～27	高橋 浩子
第二種衛生管理者免許試験	H19. 8.18	高橋 浩子

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(平成12.12.18 教育委員会規則第21号)

最終改正 平成18.3.30教育委員会規則第5号

(趣 旨)

第1条 この規則は別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事 業)

第2条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。

1. 埋蔵文化財の調査研究に関する事。
2. 出土品その他の資料の保存及び活用に関する事。
3. 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関する事。
4. 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関する事。
5. 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関する事。
6. その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関する事。

(組 織)

第3条 埋蔵文化財センターに次の課を置く。

総務課
調査第一課
調査第二課
普及資料課

(分掌事務)

第4条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

1. 職員の人事、給与及び服務に関する事。
2. 予算の執行及び決算に関する事。
3. 文書の收受、発送及び保存に関する事。
4. 公印の管守に関する事。
5. 施設及び設備の管理に関する事。
6. その他他の課の所管に属さない事項に関する事。

調査第一課

1. 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する事。
2. 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関する事。
3. 第1号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関する事。

調査第二課

1. 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する事。
2. 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関する事。
3. 第1号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関する事。

普及資料課

1. 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関する事。
2. 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関する事。
3. 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）の貸し出しに関する事。
4. 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関する事。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は同表右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所 長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 所 長 (二人)	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課 長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主 事	上司の命を受けて、事務に従事する。

2. 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。
3. 第一項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は次のとおりとする。
 - 第一順位 統括の副所長
 - 第二順位 業務担当の副所長
4. 第一項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要なに応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
副参事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副主幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 任	上司の命を受けて、専門的業務を処理する。
主 査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

- 第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要なに応じ、その他の職員の職として技術員を置く。
- 2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

- 第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。
- 2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

- 第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区 分	休 館 日
宮崎県埋蔵文化財センター	1. 土曜日及び日曜日 2. 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。) 3. 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで(休日を除く。) 4. 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。)
宮崎県埋蔵文化財センター分館	1. 月曜日(休日にあたるときを除く。) 2. 休日の翌日(土曜日・日曜日又は休日に当たるときを除く。) 3. 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで 4. 特別整理期間

- 2 所長は、必要があると認める時は、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

- 第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

1. 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
2. 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
3. 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。
4. 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。
5. 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

- 第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

- 第11条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

1. 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣又は宮崎県教育委員会が博物館に相当する施設として指定したもの
2. 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
3. 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
4. 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
5. 市町村立の歴史民族資料館等で宮崎県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が定めるもの。

6. その他教育長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書（別記様式第2号）を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
 1. 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
 2. 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
 3. 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

（弁償）

第12条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

（委任）

第13条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則（抄）

（施行期日）

1. この規則は、平成18年4月1日から施行する。

別記

様式第1号（第10条関係）

資料館等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

（法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

資料館等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

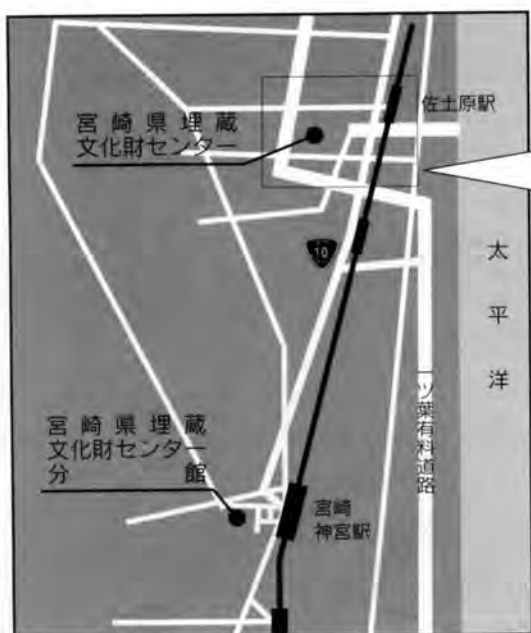
住 所
申請者 氏 名
電話番号

（法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館外貸出を受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		

(案内図)



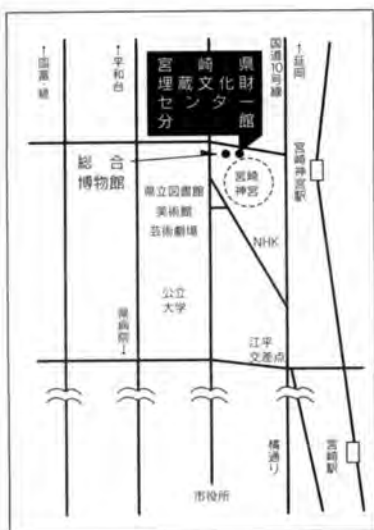
宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地
 Tel.0985-36-1171・36-1172 Fax.0985-72-0660
 E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp
 URL <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/index.html>
 ◎佐土原駅(JR)車10分 ◎御殿下バス停徒歩8分

宮崎県埋蔵文化財センター分館

〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4-4
 Tel.0985-21-1600 Fax.0985-26-2634

- 観覧時間
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日
年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料 無料
- 宮崎神宮駅(JR)－徒歩10分
- 宮崎神宮行きバス－神宮終点下車徒歩10分
- 綾・国富・平和が丘行きバス－「博物館前」下車徒歩2分



宮崎県埋蔵文化財センター年報12号
平成20年度（2008）

編集・発行：宮崎県埋蔵文化財センター
〒880-0212
宮崎市佐土原町下那珂4019

Tel 0985(36)1171・(36)1172 Fax 0985(72)0660

<http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/index.html>

発行月：平成20年5月

印刷：有限会社 河野印刷
延岡市川原崎町453

宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地
Tel.0985-36-1171・36-1172 Fax.0985-72-0660
◎佐土原駅(JR)車10分 ◎御殿下バス停徒歩8分